

会 議 録

会議名		令和 8 年度 第 2 回 東林地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		南区役所 東林まちづくりセンター 電話 0 4 2 - 7 4 4 - 5 1 8 7 (直通)		
開催日時		令和 8 年 8 月 2 5 日 (火) 午前 1 0 時～正午		
開催場所		東林公民館 大会議室		
出席者	委 員	1 4 人		
	その他	1 人 おださがさくら祭り実行委員長		
	事務局	2 人		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 過年度のまちづくりを考える懇談会に係る対応状況について 3 議 題 (1) 相模原市地域市民まつり等助成金の対象事業について (2) 東林地区まちづくりを考える懇談会のテーマについて 4 報 告 東林地区防災計画推進部会について 5 その他 6 閉 会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

吉村監事の司会により進められた。

なお、進行上の都合により、「3 議題（1）」から審議が行われた。（○は委員の発言、●はその他の出席者の発言）

1 あいさつ

田村会長から挨拶があった。

3 議 題

（1）相模原市地域市民まつり等助成金の対象事業について

東林まちづくりセンターから助成金の制度等について説明があった後、おださがさくら祭り実行委員長から、令和8年3月の第10回をもって事業を終了し、令和7年度第2回東林地区まちづくり会議において助成金交付の承認を受けた、本年度分の事業は行わない旨等について説明があり、承認された。

《主な意見、質問》

○この東林地区の未来には、地区を背負って立ってもらう若手の存在が重要であり、事業開始から10年が経過したとはいえ、我々から見れば実行委員長はまだまだ若いので、説明の中でも話があったように、今後事業をブラッシュアップして地域に愛される祭りを仲間とともに考え、地区全体を盛り上げてもらうよう、ぜひご尽力をお願いしたい。

○10年間に渡って祭りを続けてこられたことは本当に素晴らしく、ご苦労だったと思うが、活動を継続する中で地域に蓄積できた、次の活動への希望や財産となるようなものがあれば教えてほしい。

●一番の財産は、事業に多くの人に参加したという実績と、事業内容に対する確信を得られたことに加えて、10年間で関わった人と経験が残ったことであり、次に新しいことを始める際にも非常に動き出し易い土壌ができているので、今回の学びとビジョンを実行委員会メンバーで共有しながら、次の新たなイベントを検討していきたい。

2 過年度のまちづくりを考える懇談会に係る対応状況について

令和6年度の懇談会における地域からの意見を踏まえ、市の集団資源回収事業における回収品目へのペットボトルの追加に関して、関係業者と東林地区の自治会に対して行ったアンケート調査結果をまとめて市資源循環推進課が作成した資料に基づき東林まちづくりセンターから説明が行われ、承認された。

また、令和7年度の懇談会に関して、前回のまちづくり会議において追加で確認を求める事項とされた、平成12年の新たな耐震基準に基づく耐震診断の実施状況等に係る調査依頼の文案について、資料に基づき東林まちづくりセンターから説明が行われ、承認された。

3 議 題

(2) 東林地区まちづくりを考える懇談会のテーマについて

東林まちづくりセンターから、懇談会の日程が11月10日（火）に決定した旨について資料に基づき報告が行われ、承認された。

また、懇談会テーマとして提案された8件について、8月4日開催のまちづくり会議役員会において検討した結果、「3 東林地区の地域資源を活用した健康づくりと介護予防について」を懇談会テーマとするとともに、他の複数の案に共通する内容を統合した役員会案として「9 自治会活動の推進等に向けた取組について」が新たに提案され、懇談会テーマとして整理された旨について併せて説明が行われ、承認された。

なお、懇談会テーマとなった2件の文案については、会議における各委員からの意見を反映するため、9月15日に臨時役員会を開催し、内容を調整した上で提出することが改めて承認された。

《主な意見》

○テーマ3について、健康という切り口は、これまでの懇談会であまり取り上げてこなかったが、自立して健康に暮らすためには、本人の努力だけでなく地域や家族の支え、そして行政の支援や施設間の連携など多分野の関わりが必要なため、このテーマを東林地区から発信していくことは素晴らしいと感じている。

○テーマ3について、介護予防という言葉は高齢者に関わるものと連想される可能性が高いため、より広い世代を巻き込むために「健康づくり・体力づくり」という表現に置き換え、文章内の一要素として介護予防や多世代連携等の言葉を盛り込む形にしてはどうか。

○テーマ9について、市から地域にいろいろな依頼があると、自治会が動かざるを得ない状況だが、加入率は半分以下である。この厳しい状況をどのように打開するかを懇談することは非常に大切である。

資料中段の、民生委員等に関する内容の「非自治会員へのアプローチはどのように進めているのか」という質問について、市からは「広報やお知らせなどを通じてアプローチしている」といった回答が想定されるので、「非自治会員への、単なる広報やお知らせなどの周知活動だけでなく、具体的なアプローチや施策はどのようなになっているのか」という書き方にして、他にどのような方策でアプローチをする気があるのかを聞く文言にしたい。

○自治会加入率の低下は最近始まったことではなく、以前も、加入率について強く

訴えたところ、当時の副市長が「他都市の先進的な加入促進の取組や条例についてしっかりと調べさせる」と約束したはずだが、これまで調査結果は示されていないので、「市として東林地区と向き合い、懇談の際に約束したはずの調査結果をどのように施策に活かしているのか」という内容を、ここに盛り込んでほしい。

ただ、他自治体の実態を視察したというだけでなく、自治会加入を具体的に促進する実行力に結びつけてもらいたい。

市は自治会活性化の条例を作ると言っているが、中身が伴っていないので、より具体的な行動要求の内容を地域から示し、「今後検討します」という形で整理されてしまわないように対応した方がよい。

○行政にとって自治会とは何なのか、という本質的なことを聞きたい。

つまり、市役所は日頃の業務において自治会をどのように位置付けているのか、この自治会制度を維持・継続させるために、市は具体的に何を期待し、市にとってどんなメリットがあるから残そうとしているのかということを確認したい。

市の財政や人員が足りないから、本来行政がやるべき仕事をボランティア組織である自治会にカバーさせているだけではないか、という疑いをクリアにしたいが、もし、自治会にカバーさせているのであれば、市は自治会に対して相応の予算措置を行うべきであり、できないならば、自治会は行政の肩代わりをするような仕事はもう受けない、と言えるようにしなければならない。

お互いの甘えをなくすためにそこをはっきりさせたいので、強い意思を持って、この自治会の持続可能性というテーマを市に投げかけるべきだ。

○自治会の役員の担い手不足や未加入問題は、我々PTAも全く同じで、加入率が年々下がっており、どの学校でも苦勞している。

「大変そう」や「何をやっているか分からない」というネガティブなイメージを持たれ、加入・非加入の二極化が進んでいるが、加入者を増やすために何ができるか考えた時、やはり、活動している人たち自身が、本当に楽しんでやっている姿を見せること以外にないと思う。

東林地区の小学校PTAで昨年イベントを行った際、「楽しそうだから手伝う」と、未加入だった保護者や子どもたちが自発的に手伝ってくれて、そこから50人ほどの新規協力者が生まれたので、自治会活動も、お年寄りだけの固苦しい集まりというイメージを払拭し、子どもたちが喜ぶようなイベントや、若者が関わり易い楽しさや、敷居の低さをアピールして、多世代の人たちがコラボレーションできる活動にしていくことが解決の鍵だと実感している。

堅い言葉だけでなく、シンプルで、分かりやすい魅力発信にシフトしていくべきだと思う。

○地域コミュニティの調査などを見ると、住民が自治会を必要だとは思っていても、役員が順番で回ってくることが嫌で敬遠しているようだが、実際に汗をかいて動いている人たちの顔は非常に充実していて楽しそうなのに、その充実感や楽しさ

が周囲に伝わっていないと感じる。

他自治体の話を聞くと、歳末の火の用心や、地域のパトロールで夜間に対応してくれている自治会役員に対して、市長が直接激励に訪れて、「いつも本当にご苦労さま、ありがとうございます」と声をかけて回る仕組みがあるそうだが、それにはすごく大きな意味があると思う。

汗をかいてボランティアで頑張っている人たちを、行政のトップがしっかり評価し、感謝を表すといった姿勢を示すだけで、当事者の人たちは「ああ、自分たちの頑張りを市長もしっかり見て評価してくれている」と感じ、「来年もまた頑張ろう」というモチベーションになり、それが担い手の継続に繋がると思う。

相模原市が、どの程度そうした感謝の姿勢を住民に示しているか分からないが、頑張っている住民のボランティアスピリットに甘えるだけでなく、行政として活動をちゃんと評価し、感謝を伝えるシステムを、市長自らが作っていくべきだと思うし、それが自治会の持続可能性を支える何よりの原動力になる。

○今回、懇談会のテーマとして防災に関する内容がこれだけ多く出ていることに、地域の皆様の危機意識の高さを改めて感じる。

私たち小学校PTAでも、今年度防災に関するイベントを学校や地域と協力してやりたいという話があり、現在内容を審議しているところだ。その過程で、初めて避難所運営協議会という組織があることを知り、地域でそのような重要な協議会が動いているのなら、ぜひPTAも参加して、一緒に防災イベントをやりたいと提案したのだが、学校や地域の防災活動には、まだまだ縦割りや、調整の煩雑さの壁があるなと痛感しているところ。

○私が住むマンション自治会は自治会費が無料だが、なぜ無料にできるかというと、マンションに隣接する公園の清掃活動や花壇の植栽管理などを自治会でやっており、その活動に対して市から助成金等が出ているため、それを活動資金に充てることで、各世帯からの会費徴収なしで運営できている。

加入のハードルが非常に低く、新しく引っ越してきた私も「知り合いを作りたいから」という理由だけで、抵抗なくすんなりと自治会に入ることができた。

地域の高齢者の方とも関わっているが、自治会や地域のイベントに関わると本当に知人が増え、子育てをする上での不安がすごく和らぐし、いざという災害時にも顔を知っているお年寄りがいる安心感は計り知れない。

自治会活動にはそんな素晴らしいメリットがたくさんあるのに、それを知らない住民が圧倒的に多いのが現状なので、私たち若い世代や、さらにその下の次の世代に対して、自治会の良さをどうシンプルに、魅力的にアピールするかを、市も一緒になって本気で考えてほしい。

3 報 告

(1) 東林地区防災計画推進部会について

8月7日に開催された、令和8年度第2回東林地区防災計画推進部会について、東林まちづくりセンターから資料に沿って報告が行われた。

4 その他

市の次期総合計画の策定に関して、担当課が内容等の説明のために地域に伺い、皆様の意見聴取を行う場は区民会議が予定されており、まちづくり会議委員からの意見についてはまちづくりセンターでお預かりし、担当課に伝える形になることについて東林まちづくりセンターから説明が行われ、承認された。

5 閉 会

以 上

東林地区まちづくり会議 委員名簿

〔◎：会長 ○：副会長 ◇：監事〕

No.	団体名・役職等		氏 名	備 考
1	東林地区自治会連合会	会 長	◎田村 久司	出席
2		副会長	◇吉村 建志	出席
3		副会長	◇根岸 秀生	出席
4	東林地区社会福祉協議会	会 長	○阿部 匡秀	出席
5	東林地区民生委員児童委員協議会	会 長	○村田 定志	出席
6	東林公民館	館 長	○飯田 生馬	出席
7	青少年指導委員	代 表	谷 健一郎	出席
8	東林中学校	代 表	河上 隆	欠席
9	くぬぎ台小学校 P T A	代 表	大森 典子	出席
1 0	東林中学校 P T A	代 表	西村 弥生	出席
1 1	社会福祉施設（清菊園）	代 表	岡山 昌子	欠席
1 2	東林第 2 地域包括支援センター	代 表	松野 悦郎	出席
1 3	東林地区老人クラブ連合会	代 表	遠藤 裕	出席
1 4	東林地区交通安全母の会	代 表	野崎 美沙	欠席
1 5	保護司会（南保護区）	代 表	吉本 真人	出席
1 6	防災専門員	代 表	高木 博見	出席
1 7	スポーツ推進委員	代 表	阿部 智恵子	欠席
1 8	東林地区健康づくり普及員協議会	代 表	小澤 次男	欠席
1 9	東林間商店街振興組合	代 表	武島 三喜雄	欠席
2 0	公募委員		黒田 靖司	出席